



RI 会長テーマ

2016~2017 年度
大船渡西ロータリークラブ会報

七福人

会長 藤原 太伸

副会長 前野 良夫

幹事 浜田 浩誠



会長指針

チーム大船渡西で

ロータリーを楽しもう

・・・ 例会記録 ・・・

9月第5週例会 2016年9月29日(木)

ソング : 奉仕の理想 ボックス : 31,000円 (報告者 志田成樹 会員)

本日出席率 : 56.90% 前回修正後100% (メキャップ 23名) (報告者 新沼敏宏 会員)

★ 会長の時間 藤原太伸会長

会長の時間を務めさせていただきます。

本日は職業奉仕アワー職場訪問と言う事で、金比呂正会員の職場 長安寺に来ての移動例会です。本日は雨模様の中、多くの会員の方々出席を頂き有難うございます。そして例会場所を提供して頂きました金会員にも感謝申し上げます。

金会員に違うよと言われるかも知れませんが、私なりに長安寺についてちょっと調べてまいりました。

長安寺 大船渡市日頃市町にある真宗大谷派の寺院。山号は片杉山。

開創は、平安時代末期頃と伝えられ約 900 年の歴史を持つ東北屈指の名刹。長安寺のシンボルともいえる山門は、総ケヤキ造りで、1798 年(寛政 8 年)に竣工されましたが、当時ケヤキが禁制木材であった為、藩主の伊達氏から工事途中で中止を命じられたことにより、以後の工事続行が出来なくなり、意匠の一部・扉・袖壁など完成に至らず未完成の建造物で、「袖なしの門」と言う異名があります。現在の本堂は、1833 年(明治 16 年)に創建されているようです。江戸時代後期には、幕府を批判した事から罪人として追われていた蘭学者高野長英が長安寺に身を隠し、密かに地元の門弟などに蘭学を教えていたとも伝えられています。

境内には、「長安寺大イチョウ」・「奥州しだれ桜」の大木があり 1972 年(昭和 47 年)に大船渡市指定天然記念物に指定されています。 時間のある皆様は、是非見て行っていただければと思います。

今回会長の時間を話すのに、いろいろ調べてみて思ったことは、現在の建築基準に照らし合せなければ成りませんが、東北随一と言われる壮麗な山門「袖なしの門」の完成をした姿を見たいものですし、願いかなわく場、山門完成予想絵図でも見てみたいものと感じました。そしてあまり寺院等におもむく機会がない自分ではありますが、ここに来て心が少し洗礼されたと感じる事が出来たと思います。最後にもう一度、多くの会員の方々の出席を頂き感謝申し上げますと共に、例会場所を提供して頂きました金会員にも感謝申し上げます会長の時間とさせていただきます。

◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

1 ガバナー事務所より

イ 10月のロータリーレート 1ドル 102円と連絡がありました。

ロ ロータリー・リーダーシップ研究会(RLI)の案内が届いています。

日時 12月4日(日) 9時30分～

会場 齋苑 締切り 11月20日 費用 4,500円

ハ 地区大会の案内が届いています。

ゴルフ大会	11月5日(土) 7時30分～	於 江刺カントリー倶楽部
	登録料 5,000円	プレー代除き
会長・幹事会	11月19日(土) 15時～	於 リアスホール
本会議	11月20日(日) 9時30分～	於 リアスホール
懇親会	11月20日(日) 17時30分～	於 市民体育館
登録料	8,000円	

※当クラブが主管となりますので会員皆様のご協力お願い致します。

◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆
職業奉仕アワー（職場訪問）： 長安寺

【長安寺の由緒・沿革】



寺伝によれば、開基は、正善坊である。金（安倍）為時4代の嫡孫に次郎丸為正と言う人があり、若年ではあつたが深く無常を感じて出家し、比叡山に上り生前坊と号し東塔の内に住した。その後、支那の長安の都に留学したと伝えられる。後、本国に帰り気仙に下向して日頃市に一字を建立して「長安寺」と命名した。

正善坊から数えて二十一世の住職までは天台宗を唱えていたが、二十二世正光坊の時代、明德年間（1390-1394）本願寺第六世巧如上人の時 真宗に改宗した。以来ここに二十世の衣鉢を伝えて今日に至っている。弘治2年（1556）火災に遭い、寺宝古記等ことごとく焼失している。古い事の詳細を知る資料に欠けている。

山門は寛政8年（1796）に着工し、同年10年（1798）に竣工したものである。この山門建立に当たっては藩主の止木である檜材を使い、又、先代にもない高桜を建てたことは、藩主に背くものであるという理由で、再三取りこわしを命ぜられたが、その都度釈明して取り壊しは免れたが、以後は一切手を触れてはならぬ、という事で許され、その為今日まで袖なし、ひらきなしの山門となっている。この藩主お咎めの弁明役に当たった廓念坊秀諦師の命がけの苦勞談については、今の西法寺に古文書が残っている。

太鼓堂は、当寺中最も古い建造で、寛保2年（1742）の建立になり、桃山時代の建築様式を忠実に表現した文化財として評価されるものである。

本堂は一八間四面。住職十七代正恩の時代、明治5年（1872）着工し、同13年（1880）完成しており、その檜材は仙台藩の山林の無償譲与を受けたもので、まれに見る巨木である。その巨大な大伽藍はまさに東北屈指の大寺院である。

